

## 2. 研究プロジェクト

2024 年度研究プロジェクト成果報告

( I ) IGS 研究プロジェクト

( II ) 外部資金研究プロジェクト

( III ) 海外の助成金による研究プロジェクト

## ▶ 2024 年度研究プロジェクト成果報告

# 学際的、先駆的ジェンダー研究を目指して

ジェンダー研究所は 2015 年以来、グローバル女性リーダー育成研究機構の中核的な研究機関として先端的ジェンダー研究に取り組んできた。その前身であるジェンダー研究センターは、国際的なジェンダー研究のネットワークにおける東アジアにおける重要なハブとして活動し、21 世紀 COE プログラム『ジェンダー研究のフロンティア』（2003～2007 年度）をはじめとした研究プロジェクトを通じて広く注目を集めてきた。ジェンダー研究所はジェンダー研究センターが積み重ねてきた研究成果を引き継ぎつつ、伝統的な学問分野に縛られない学際的で先駆的なジェンダー研究を志している。アジアにおけるジェンダー研究の拠点を目指し、国際的な共同研究と、その成果発信を積極的に進めており、蓄積された研究成果を広く社会へ還元していく。

### 先端的な研究を推進し、広い学術ネットワークを構築

ジェンダー研究所は、(I) IGS 研究プロジェクト、(II) 外部資金研究プロジェクト、(III) 海外の助成金によるプロジェクトにおいて、先端的な研究を推進している。とりわけ IGS 研究プロジェクトでは学内研究員、客員研究員、研究協力員の協力を得ながら広い学術ネットワークを構築し、その成果を意欲的に発信している。2024 年度もそれぞれの研究分野において研究会や公開セミナー、国際シンポジウムを実施したほか、成果出版物の刊行、国際共同研究や国際ネットワークの構築に取り組んだ。

アジア工科大学院大学 (AIT) における院生交流 (本報告書 52～53 頁参照) は、派遣 8 名・受け入れ 2 名が参加した。また研究所メンバーも国内外での学術ネットワークを拡大させ、学会発表や講演などを活発に行った。個々のプロジェクトの研究概要については、本報告書 16～20 頁を参照していただきたい。

### 国際シンポジウム、IGS セミナー、研究会の開催と学術雑誌『ジェンダー研究』の刊行

各研究分野におけるシンポジウムやセミナーの開催と、『ジェンダー研究』の刊行により、成果発信に力を入れた。

2020 年度から 2023 年度頃まで、ジェンダー研究所は Zoom を利用したオンライン配信やハイブリッドでのシンポジウムやセミナーを数多く開催していた。この試みは新型コロナウイルス感染症の対策であったが、地理的距離や生活パターン、健康上の理由などさまざまな事情のためにお茶の水女子大学に直接足を運ぶことが難しい方々の参加が可能になるという利点があった。2024 年度は、7 月 31 日の国際シンポジウムを Zoom ウェビナーによるハイブリッド開催とした。Zoom ウェビナーは同時通訳の使用においても利便性が高く、また対面に比べて圧倒的に多くのオーディエンスの参加を実現することができた。一方でオンラインやハイブリッドでの実施では、直接的なコミュニケーション機会が限定されるという問題もある。2024 年度の企画は、7 月の国際シンポジウム以外は対面で実施され、登壇者とオーディエンスが活発な交流を行うことができた。

ジェンダー研究所は、年に 1 度、学術誌『ジェンダー研究』の刊行を続けている。最新刊である第 27 号は、2023 年度に実施された IGS 国際シンポジウムにおけるディスカッションを受け、研究論文 3 本から成る特集「グローバル政治の中のセクシュアリティと暴力」が巻頭を飾っている。第 27 号は、この特集に加えて投稿論文 4 本、書評 19 本を収録し、2024 年 7 月に刊行された (本報告書 58～60 頁参照)。

## 2024 年度研究プロジェクト 分野別一覧

(I) IGS 研究プロジェクト
「東アジアにおけるジェンダーと政治」研究
東アジアにおけるエコロジーと生存のフェミニスト分析
資本と身体ジェンダー分析
性・身体・再生産領域におけるジェンダー分析
反公害／環境運動史におけるジェンダー／フェミニズム分析
グローバル・ガバナンスの変容と国家の再構築におけるジェンダー
文学・芸術文化表象とジェンダー
(II) 外部資金研究プロジェクト
科学研究費 挑戦的研究（萌芽）（課題番号：24K21404） ジェンダーパリティ議会の実態調査による日韓比較
科学研究費基盤研究 B（課題番号：23H03654） フェミニズム理論による新たな国家論の構築：ケア概念と安全保障概念の再構想から
科学研究費基盤研究 B（課題番号：23H00888） 日本における移住女性家事・ケア労働者の労働状況と主体性に関する発展的研究
科研費国際共同研究加速基金（国際共同研究強化 B）（課題番号：21KK0033） 人民公社期の中国農村における生活秩序の変化とジェンダー
科学研究費基盤研究 C（課題番号：19K12603） 香港における移住女性の再生産労働力配置：「グローバル・シティ」のジェンダー分析
科学研究費基盤研究 C（課題番号：23K11676） 「からゆきさん」にみる性・移動・再生産領域
科学研究費基盤研究 A（課題番号：24H00106） 「奴隷制の想像力」：地中海型奴隷制度論の動態的検討
科学研究費若手研究（課題番号：23K17134） 日本による親ジェンダー外交の展開：安全保障、ガバナンス、植民地主義視点からの分析
(III) 海外の助成金による研究プロジェクト
ノルウェー高等教育国際連携推進機関 Diku（UTF-2020/10135） UTFORSK プロジェクト「Teaching Gender Equality and Diversity in Norway and Japan」

## (I) IGS 研究プロジェクト

### IGS 研究プロジェクト

#### 「東アジアにおけるジェンダーと政治」研究

【研究担当】 申琪榮 (IGS 教授)

【概要】

東アジア地域はその経済発展の成果により国際的に注目されているが、政治の民主化の道筋は一樣ではない。本研究プロジェクトでは、日本と韓国、台湾の議員を対象としたアンケート調査による国際比較分析を行ない、東アジア地域において、女性の政治代表性を向上または妨げる要素は何か、政治制度におけるジェンダー多様性を実現させるにはどのようにしたらよいかを検討する。

### IGS 研究プロジェクト

#### 東アジアにおけるエコロジーと生存のフェミニスト分析

【研究担当】 大橋史恵 (IGS 准教授)

【共同研究者】 岩島史 (京都大学講師)

【概要】

気候変動や資源をめぐる国家間の対立など、さまざまな地球規模での「危機」が人びとの生存のありかたに深刻な影響をもたらしている。このような局面において、資本主義において自明とされてきた「所有」概念を中心とした経済システムを批判的に再考し、民主主義的なコモンズ（共有財、公共財）の可能性を切り開こうとする議論が注目されている。一方で、これまでの科学知のありかたにおいて資源や財をめぐる問題系は、ジェンダー、階級、人種・民族といったインターセクショナルな抑圧・排除の構図を度外視してきたが、上記のような研究潮流においてこのことは十分に議論されていない。本プロジェクトではこうした状況を鑑み、コモンズやサブシステムに関するフェミニスト理論を再検討し、アジアの農山漁村をフィールドとした現状分析をおこなうための基礎研究に取り組む。

### IGS 研究プロジェクト

#### 資本と身体ジェンダー分析

【研究担当】 大橋史恵 (IGS 准教授)

【共同研究者】 足立真理子 (IGS 客員研究員)、板井広明 (専修大学教授／IGS 研究協力員)

【概要】

本プロジェクト「資本と身体ジェンダー分析：資本機能の変化と『放逐』される人々」は、グローバル金融危機以降の資本の中核機能の変化を分析する。サスキア・サッセンの「放逐 expulsions」概念に着目して、従来の身体断片化や排除／包摂の概念では把握不能な「放逐」の「常態化」をジェンダーの視点から分析する。

## (I) IGS 研究プロジェクト

### IGS 研究プロジェクト

#### 性・身体・再生産領域におけるジェンダー分析

【研究担当】 嶽本新奈 (IGS 特任講師)

##### 【概要】

本研究プロジェクトは、開国以降に海外へ渡航し、渡航先で性売買をしていた女性たち（「からゆきさん」）の実態を再生産領域の観点から考察することを目的としている。性売買の問題のみに注目されがちな「からゆきさん」だが、彼女たちの再生産領域の問題にも深くかかわる「経験」でもあるため、女性たちの生涯を視野に入れて考察をしていく。

### IGS 研究プロジェクト

#### 反公害／環境運動史におけるジェンダー／フェミニズム分析

【研究担当】 嶽本新奈 (IGS 特任講師)

【共同研究者】 西亮太 (中央大学准教授)、番園寛也 (熊本学園大学水俣学研究センター客員研究員)

##### 【概要】

天草に建設された石炭火力発電所への反対運動として始まった天草環境会議は 2023 年で 40 回目を迎えた。天草環境会議は石炭火力発電所建設を公害と環境の複合的な問題としてとらえており、国内外の運動ネットワークと知的影響関係を持っていた。この運動の歩みと実践をジェンダー／フェミニズムの視点によって検討する。

### IGS 研究プロジェクト

#### グローバル・ガバナンスの変容と国家の再構築におけるジェンダー

【研究担当】 本山央子 (IGS 特任 RF)

##### 【概要】

グローバル市場や国家間の地政学的闘争によって国際秩序が大きく変化するなかで、多様なアクターがジェンダーに関わる理念や規範をどのように理解して実践しているか、そのことがグローバル・ガバナンスや国家の再構築にどのような役割を果たしているかについて分析する。

### IGS 研究プロジェクト

#### 文学・芸術文化表象とジェンダー

【研究担当】 戸谷陽子 (IGS 所長／お茶の水女子大学教授)

##### 【概要】

文学や芸術文化表象（ポップカルチャーおよびサブカルチャーを含む）、広告を対象にそのジェンダー表象を分析し、日常にみられるジェンダー意識の変遷を跡づける。

## (II) 外部資金研究プロジェクト

**科学研究費 挑戦的研究（萌芽）（課題番号：24K21404）****ジェンダーパリティ議会の実態調査による日韓比較**

【研究代表者】申琪榮（IGS 教授）

【期間】2024 年 6 月 28 日～2026 年 3 月 31 日

## 【概要】

政治分野に女性の過小代表性が問題視され始めて久しいが、近年女性が半数又はマジョリティを構成する地方議会（ジェンダーパリティ議会）が複数現れたのはこれまで経験したことのない新しい現象である。ジェンダーパリティ議会についてはクオータのような制度的な取り組みやフランスの実践が注目を集めてきたが、女性がマジョリティとなった議会にもたらされた変化、すなわち数の均等がもたらす質的な変化についていまだに研究が乏しい。本研究は日韓におけるジェンダーパリティ地方議会の質的分析を行い、今後増えていくだろうこれらの議会に対する学術的な知見を生み出す。

**科学研究費基盤研究 B（課題番号：23H03654）****フェミニズム理論による新たな国家論の構築：ケア概念と安全保障概念の再構想から**

【研究担当】申琪榮（IGS 教授）[研究分担者]、本山央子（IGS 特任 RF）[研究分担者]

【研究代表者】岡野八代（同志社大学教授）

【期間】2023～2026 年度

## 【概要】

現在、政治学の主要な研究対象であった国家は、市民社会との関連だけでなく、より広くより複雑な形で、国際社会、環境、経済、そしてジェンダーといった視点から、その歴史を踏まえて問い直される時がきている。そこで、本研究では、第二波フェミニズム運動を受けて深化した 90 年代以降のフェミニズム理論を批判理論として捉え、男性中心主義を克服するための鍵をケア労働の配置とその権力的分配の在り方の刷新のなかに見出すことによって、武力を背景とした安全保障概念を見直し、環境や国際社会にまで射程を拡げたフェミニズム理論に依拠した国家論を構想する。

**科学研究費基盤研究 B（課題番号：23H00888）****日本における移住女性家事・ケア労働者の労働状況と主体性に関する発展的研究**

【研究担当】大橋史恵（IGS 准教授）[研究分担者]、平野恵子（横浜国立大学准教授／IGS 研究協力員）[研究分担者]

【研究代表者】定松文（恵泉女学園大学教授）

【期間】2023～2025 年度

## 【概要】

本研究は以下二つの課題から構成される。課題 I では現在の家事・ケア労働市場・準市場・非市場における需要と労働者および経験者の労働実践と就業選択の理由に関する定性的調査として、現在の移住家事・介護労働者および日本での介護・ケア労働の経験者への聞き取り調査を計画している。課題 II は移住家事・ケア労働者の連帯と社会変革の主体性の研究である。調査からキーパーソンを選び、複数回の聞き取り調査により地域社会の再生産を行う主体性を析出する。アジア諸国と国際労働組合総連合（ITUC）等における家事・ケア労働者の運動と連帯の動向を調査し、グローバルな潮流の中での日本の移住労働者との連携や運動の展開について考察する。

## (II) 外部資金研究プロジェクト

### 科研費国際共同研究加速基金（国際共同研究強化 B）（課題番号：21KK0033）

#### 人民公社期の中国農村における生活秩序の変化とジェンダー

【研究担当】大橋史恵（IGS 准教授）[研究分担者]

【研究代表者】堀口正（大阪公立大学教授）

【期間】2021～2024 年度

#### 【概要】

人民公社期の中国農村における生活秩序の変化とジェンダーについて、実証的に検討することを目的とする。人民公社期の同種の研究蓄積は非常に少なく、歴史学、政治学、社会学などの学術的領域で断片的に行われてきた。したがって、本研究では、1950 年代から 70 年代の共有資源の維持・分配のあり方や、世帯内外の生産・再生産労働の労働力配置などに着目しながら、ジェンダーの視点から議論・検討する。

### 科学研究費基盤研究 C（課題番号：19K12603）

#### 香港における移住女性の再生産労働力配置：「グローバル・シティ」のジェンダー分析

【研究代表者】大橋史恵（IGS 准教授）

【期間】2019～2024 年度

#### 【概要】

本研究は、香港社会において異なる移住女性による再生産労働力がどのように配置されてきたかを、中国人家事労働者と外国籍家事労働者およびその雇用主を対象としたオーラル・ヒストリーの聞き取りから明らかにするものである。香港が輸出志向工業化路線から東アジアの金融・貿易サービスの中枢を成す「グローバル・シティ」へと転換した時期は、外国籍の家事労働者の受け入れが拡大していくとともに、主に広東省に出自をもつ中国人女性の労働力配置に変化が生じた時期と重なる。1980 年代末から今日までの香港の社会経済構造の変動において、トランスナショナルにあるいはトランスローカルに移動して家事労働者になった女性たちはどのように受け入れられたのか。異なるケアの担い手たち（移住女性）と受け手たち（雇用主）の「ケアの記憶」を通じて香港の再生産領域の変化をとらえたい。

### 科学研究費基盤研究 C（課題番号：23K11676）

#### 「からゆきさん」にみる性・移動・再生産領域

【研究代表者】嶽本新奈（IGS 特任講師）

【期間】2023～2025 年度

#### 【概要】

「からゆきさん」の移動を現地における再生産労働の需要と供給の観点から把握することで、その移動現象を構造的に解釈することが可能になる。と同時に、娼館を出て以降の女性の選択を「経済的営為」の選択肢として解釈し、女性たちの生涯の経験をより包括的に分析対象とする。最終的な目標としては、再生産労働概念を用いて彼女たちのミクロな経験と、国家・植民地・コミュニティというマクロな動きを接合し、その構造を明らかにしていきたい。

## (II) 外部資金研究プロジェクト

### 科学研究費基盤研究 A (課題番号: 24H00106)

#### 「奴隷制の想像力」: 地中海型奴隷制度論の動態的検討

【研究担当】 嶽本新奈 (IGS 特任講師) [研究分担者]

【研究代表者】 清水和裕 (九州大学教授)

【期間】 2024～2027 年度

#### 【概要】

本研究は、古代地中海世界から近世・近代大西洋奴隷交易へと展開した地中海型奴隷制度について、「奴隷制の想像力」がその変容過程に及ぼす影響に着目しつつ、グローバルで動的な展開を描き出す。「奴隷制の想像力」とは実際の奴隷制と隷属に関する言説や表象が作り出していく「奴隷制／隷属イメージ」が歴史的現実を変えていく力である。本研究においては、地中海型奴隷制度と地域的な隷属関係の交差のなかに成立する「奴隷制の想像力」の検討に当たり、ジェンダーと労働形態、奴隷の逃亡・抵抗・解放といった諸元に注目して分析を行うものである。

### 科学研究費若手研究 (課題番号: 23K17134)

#### 日本による親ジェンダー外交の展開: 安全保障、ガバナンス、植民地主義視点からの分析

【研究代表者】 本山央子 (IGS 特任 RF)

【期間】 2023～2027 年度

#### 【概要】

本研究は、日本が国内ジェンダー秩序との矛盾をいかに統制しながら、国際ジェンダー規範との交渉を通して「先進国」としてのアイデンティティを構築し特権的地位を主張してきたのか明らかにすることを目的としている。明治期以降の外交を通じた国際ジェンダー規範との交渉を包括的に把握し、特に 2010 年代以降の外交におけるジェンダーの位置づけの変化について、歴史的植民地主義、安全保障の再定義、新自由主義的ガバナンスの台頭という 3 つの要因に注目して分析を行う。

## (III) 海外の助成金による研究プロジェクト

### ノルウェー高等教育・技能局 (HK-dir) による助成金プロジェクト (UTF-2020/10135)

#### UTFORSK プロジェクト「Teaching Gender Equality and Diversity in Norway and Japan」

#### 【研究担当】

小林誠 (基幹研究院人間科学系教授) [本学側代表]、戸谷陽子 (IGS 所長) [本学側プロジェクト・コーディネーター]、石井クンツ昌子 (理事・副学長) ほか

ノルウェー科学技術大学 (NTNU) ジェンダー研究センター研究者

【期間】 2021～2025 年度

#### 【概要】

ジェンダーおよびダイバーシティ研究教育の質を高めるための新しい教育戦略を構築するプロジェクト。学生、若手研究者、教員が、パートナー大学での共同セミナーや共同指導を経験するなど、質が高く活力に満ちた、国際的な学びの環境を提供する。研究発表や産学連携への参与など若手研究者への機会提供や、論文の共同執筆など研究者同士の将来的なパートナーシップ発展につながる活動も行う。また、SDGs のジェンダー・ダイバーシティ関連の目標達成に資する成果を目指す (本報告書 49 頁参照)。